

<大学改革>

○入試

- (1) 育てたい人物像「『ネアカ のびのび へこたれず』の精神を持つ」を見据えた入試制度、判断基準の確立
 - ・アドミッションポリシーと連動した入試制度の検討
 - ・オープンキャンパスの集客アップ企画立案、実行（5回開催）
 - ・優秀な留学生の確保
 - ・県外日本語学校を本学に招致し、プロモーションを展開

- (2) 一般広報活動
 - ・大学の情報を一元的に集約・管理し、広報素材の発掘を進め、集約した情報の積極的なニュースリリースを実施
 - ・ウェブサイトの定期的なアクセスログ解析や外部企業による客観分析を踏まえ、常に進（変）化するサイト作りを実施
 - ・フェイスブックの大学公式サイト立ち上げ
 - ・教職協働の意思決定プロセスを重視し、一貫性のある広告プロモーションを実施
 - ・トップメッセージ等の発信により、全学生・全教職員に対して大学運営の透明性と大学執行部の意思を伝達
 - ・危機管理広報体制の強化として、関係者に対し緊急記者会見対応等のロールプレイング研修会を実施
 - ・本学広報体制の見直しおよび強化策の検討

○教育

- (1) 従来の講義暗記型、一方通行型の多人数教育から、参画型、少人数型教育への転換（特に初年次において）
 - ・学部専門 PBL 科目「実践系プロジェクト科目」の開講
PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング） -- 具体的に設定された課題解決に向けて学習する
 - ・私語対策の一環として、全ての授業を 200 名以下とする仕組みづくり
 - ・ディプロマポリシーに基づくカリキュラム点検の実施

- (2) 学生に将来の夢や目標、興味・関心を入学後できるだけ早期に発見させることを目的とした初年次教育改革
 - ・学習習慣定着のきっかけを与える新プログラムの開発
 - ・Moodle 共通教材、ネイティブ教員との会話授業に関する教育効果の検証
Moodle -- 科目の中で教員と学生の活動を支援するためのソフトウェア
 - ・海外協定校への交換留学の拡大とサポートの実施
 - ・日本語能力試験 N1 合格に向けた講座を開設し、留学生の日本語能力底上げを実施
 - ・レポート作文コンテスト、SPI コンテストの実施

(3) FD の継続推進

- ・FD 研修会、FD ワークショップの実施
- ・新任教員研修の実施
- ・期中（在学時）アンケートの検討
- ・卒業時アンケートの実施

(4) 社会連携推進プログラムの更なる推進

- ・学園都市ゼミ対抗イベントの継続実施
- ・神戸市西区、神戸市須磨区、明石市、JA といった近隣行政団体との連携を活用したプログラムの検討と実施
- ・学内全体（特に教員）の取り組みについて情報を集約するための仕組みづくり

(5) 個別施策

- ・AO 入試・指定校推薦入試合格者への入学前課題の内容検証と改善
- ・公募推薦入試合格者への入学前教育の検証と改善
- ・学部別海外研修（総合政策学部、サービス産業学部）の実施
- ・観光人材育成プログラムの「旅行事業コース」「ホテル事業コース」「観光まちづくりコース」を継続実施
- ・新たなプログラム「リテール事業コース」の実施
- ・TERAKOYA1（税理士・国税専門官などの国家資格取得を目指す）の運営方法見直しと環境整備の実施
- ・在学生から希望者を募り、本学らしいポートフォリオの雛形を検討
- ・独立団体「学生図書委員会」を新規に立ち上げ、学生自身が学生選書ツアーなどを実施
- ・SARD 第 10 回ワークショップの展開（10 周年として本学にて開催）
- ・海外の大学と新規で提携を実施（アジア、欧米諸国）

○学生生活

(1) 課外活動を中心とし、学生にルール・マナーを身につけさせるための施策検討

- ・課外活動の推進による大学の活性化
- ・公認クラブ加入率目標 40%（前年度 37.5%）、加入者数目標 1,500 名（前年度 1,444 名）
- ・女子クラブの広報を強化するとともに、環境改善を実施
- ・監督・コーチ・部員による高校訪問のための指導・研修実施
- ・挨拶キャンペーン、クリーンキャンペーンの実施

(2) 学生満足度（「流科大」へ来て良かったと思わせる）を更に向上させるための学生向けプログラム検討

- ・学園祭とミニオープンキャンパスとのコラボレーション実施
- ・学園祭新体制（独立団体・課外活動団体の協働開催）の確立
- ・ボランティア参加者数増のための施策検討と実施
- ・留学生入学時オリエンテーション等での警察招聘による学生生活に関する注意警鐘を実施
- ・日本人学生が留学生を受け入れる「学内ホストファミリープログラム」の実施

- ・有朋会支部活動の充実と個別同窓会の開催および立ち上げを支援
- ・実学サロンの充実として、卒業生と在学生在が交流できる場を提供

○キャリア開発

- (1) 学生が自らの「個性」を認識するためのサポート、学生のキャリアプラン作りのサポート
 - ・社会連携プログラム・各種体験プログラム等の参加推進（1～2年次）
 - ・就職活動時の自己PR作成に繋がる「自分の“売り”コンテスト（仮称）」立ち上げ（1～2年次）
 - ・学生が自身のSPIの力を早期に認識できるための施策として、「図書館キャリア教育ルーム（仮称）」立ち上げ（1～2年次）
 - ・SPI模試の推奨により、学生に現状把握させて、得点力アップのためのプログラムへ誘導（3～4年次）
 - ・3年生個人面談について、就職ガイダンス・ゼミ訪問等において案内し、面談を実施（3～4年次）
 - ・就職希望者の履歴書完成度向上（3～4年次）
 - ・実学カリキュラム、OBOG相談会、インターンシップ、協力企業の業界説明会への参加推進（3～4年次）
- (2) 就職活動のサポート
 - ・留学生の就職支援として、帰国希望の学生を対象に、本国向け就職支援を実施
 - ・図書館就職資格コーナーを、より専門的学習に即した「業界リサーチルーム（ラーニングcommons）」として再編
 - ・就職率目標75%以上の継続

○教職員の採用・評価・昇格

- (1) 「学生の教育」に対して、より重点を置くことによる教職員採用・評価・昇格基準の変更
 - ・本学のあるべき教職員像を明確にし、教育に関する評価項目取り入れを実施
- (2) 教員個人研究費の見直しと研究活動の評価実施
 - ・教員の教育研究活動の評価に応じて研究費を配分できる方向で検討

大学組織

- (1) 大学改革を推進し、PDCAをまわすための組織（センター、委員会、事務局組織）再構築
 - ・1法人1大学と小規模な組織であることを強みとし、理事長、学長のリーダーシップの下、中内学園中長期計画（N-PLAN）を早急に推進できる体制の確立を実施
 - ・学園の危機管理体制の充実として、危機管理マニュアルを教職員へ徹底

大学風土

- (1) 学生が失敗を恐れず何事にも挑戦できる風土作り
 - ・新入生下宿オリエンテーションにおいて、下宿生同士の交流を促進
 - ・携帯メールへの情報配信を実施し、学生体験プログラム等を案内

<組織力・経営力強化>

意思決定プロセス

- (1) 経営戦略会議の設置により、法人の方針に従って、大学が決定し遂行するプロセスの確立
- ・中内学園中長期計画（N・PLAN）を全教職員へ徹底
 - ・前年度までの中長期計画（RYUKA プラン21）を評価・検証

人材育成

- (1) 常に問題意識を持ち、学園・大学の戦略遂行を担う職員の育成
- ・プロジェクトに参画し、大学の将来について考えられる職員の育成

○財務構造

- (1) 財務構造の磐石化
- ・3大経費（人件費、教育研究経費、管理経費）を予算統制により効率的に配分
 - ・投資計画と連動した基本金組み入れの実施
 - ・監事、監査法人、監査室の有機的連携による各種監査の実施
 - ・社会的説明責任を果たしていくための学園の情報開示規程を制定
- (2) 第二の収益源確保対策検討
- ・オープンカレッジのカリキュラム精査と効果の高いメニューの実施、受託研修の拡大
 - ・第二の収益源開発に向けた検討実施

○投資計画

- (1) 選択と集中（中長期計画において必要な投資を決定すると同時に、不必要とされる経費の削減等を実施）
- ・中内学園中長期計画（N・PLAN）に基づく投資の実施
 - ・国債を中心としたローリスク運用の実施
- (2) 学園・大学の将来像検討（新たな学部設置等）
- ・本学の強み・弱み、保有資産等の分析を実施し、将来像を検討

<学園・大学の存在価値明確化>

○学園・大学の象徴となる組織の発展

- (1) 各業界団体と協力し、テーマを絞り込んだ研究会を実施するとともに、研究者（教育者）を採用、養成し、学園・大学の存在価値を明確にするための目標「リテールを一つの産業として確立させる」への基盤づくりを実施
 - ・リテール科学研究所の取り組みとして、行政、各流通関係協会との意見交換会を定期的開催

- (2) 学園・大学の存在価値を明確にする中内功記念館、流通科学研究所、流通資料館の発展
 - ・中内功記念館来館者が気軽に見学できる仕組み（セルフ化）の検討
 - ・流通科学研究所における観光ビジネスモデル研究会、まちづくり・流通研究会等の継続実施
 - ・流通資料館の深化として、検索手段と資料利用サービスの提供を開始